

長崎＜出島・表門橋＞視察レポート

【期 日】 2018年12月4日～5日

【場 所】 長崎市 出島

【参加者】 市山、矢野、滝田、田中、古一、森川の組合役員と加賀建設・鶴山さんの7名

【現地参加者】 渡邊竜一（株式会社ネイ&パートナーズジャパン代表・表門橋設計者）

松尾大介・江口忠弘（出島ベース事務局） 嘉松寿夫（長崎市・土木部）

【企画主旨】

協同組合土質屋北陸は、2018年6月28日に21世紀美術館シアターで「ふたたび海を渡る橋 BRIDGE」上映&トークショーを開催しました。橋の構造の素晴らしさ、景観との一体感、デザインなど、それだけではなく、地域の人々と公共事業の関わりを実際に観てみようということで企画しました。



設計者の渡邊さんから、橋のコンセプトや構造など直接レクチャーを受ける



デザインについて気を付けたことなど、細かく説明していただきました。



左の写真が「荷重をかけない」出島側、右の写真が「橋の支点場所」江戸町側

<2017年に架橋となった「出島表門橋」、概略をお聞かせください>

渡邊: 出島は、ご存知のように江戸時代の鎖国の象徴のような小さな人工島で、かつては4.5mの小さな石橋でつながっていました。明治に入って橋が架かっていた中島川の川幅が30mに拡幅され、周囲が埋め立てられ、今では出島は島ではありません。その復元整備事業は実は1951年にスタートしたもので、長崎市はそれからちょうど100年目となる2050年に出島を完全に復元しようという計画を進めています。その長い計画の途中の2013年に実施されたのが、昔あった位置に橋を架けるというプロポーザルで、僕たちの案が最優秀に選ばれました。そのときの要件は2つ。一つは、出島は国指定の史跡のため、出島側に橋台を設けてはいけないということ。もう一つは、文化庁からのもので、復元と誤解されないよう、昔風のものではない現代の橋にすることでした。

<なかなか厳しい条件じゃないでしょうか？>

渡邊: そうなんです。そこで、僕たちは2つのコンセプトを立てました。一つは橋脚を立てない。法律（河川管理施設等構造令）上は、橋脚は1本立ててもよかったです。長崎は水害もあるし、できれば河川内に橋脚はない方がいいだろうという判断です。もう一つは、出島を見に来る人のための橋ですから、出島の風景を邪魔しないよう、上部に構造物をなるべく出さないということでした。橋長は、正確にいうと38.5m、メインスパン33.3mを出島の対岸、江戸町側から2mの支点で支えています。基本はテコの原理で、江戸町側につくった橋台が重しになって引っ張る、つまり「片持ち」という、橋としてはかなり特殊な構造になっています。

<どのような構造なんでしょう？>

渡邊: 基本構造は、主桁2枚の鋼板（sm570材）と座屈止めの補剛材、横桁、ブレースから成りますが、多数の開口部を設け、出島が透けて見えるような意匠にしています。さらに、船から見上げる可能性もありますので、下から見てもきれいなデザインを考えました。つまり、スチールの構造部材がそのまま意匠部材でもあるわけです。

<こうした構造は、高度な溶接技術が必要ですが>

渡邊: もともと長崎には製鉄、造船に高度な技術をもつ企業が多数あり、船だけでなく橋も多数つくってきたという歴史があります。そうした地元の企業と一緒に作りたいたと考えました。塗装も「風景に溶け込む」というコンセプトから、出島の建物に象徴的な瓦のような鈍い光り方をするステンレスフレーク入りフッ素樹脂塗装という特殊な塗装にして、光の当たり方で暗く沈んだり、真っ白にとんで見えたりする。こうした色彩と、多数の開口部で陰影をつけることによって、遠くから見ると本当に橋がどこにかかっているか気付かない人もいるくらい、風景に違和感なく溶け込んでいると思います。

<デザインについて地域の反応はいかがでしたか？批判もあったようで>

渡邊：基本設計時点から設計内容はシンポジウム等で公開されていたのですが、詳細設計に入って橋の形がより具体的になってきた2015年くらいから、地元住民がどう思っているのかが気になり、市役所をお願いして近隣住民説明会を開催してもらいました。そうすると地元の人たちは、昔の小さな石橋が復元されると思っていて、「想像していたものと違う」「そんな橋ならいらぬ」など、新聞にも反対する投書が掲載されたりしました。

<えっ、反対されたんですか？それでどうされたのでしょうか>

渡邊：地元の人々の意見をもっと聞きたいと思い、長崎に通い話を聞くこととしました。そうすると少しずつ地元の人たちの反応も変わってきました。さらに地元のコンサルタントと一緒に「出島ベース」という任意団体をつくり、地域住民が参加できる様々なイベントを企画、運営し、架橋の瞬間まで皆さんに参加意識をもってもらった。さらに、架橋後も市民が自主的に清掃活動をする「はしふき」などにつながっています。設計者、住民、施工者など関係者が、ずっとこの4年半という時間の中で、いろいろな人と出会いながらやってきました。設計を考えながら、人を繋いでいく、その両方を進めたのがこのプロジェクトです。

<「はしふき」について教えてください>

渡邊：「はしふき」は毎月、第2、第4月曜日18：30～19：30を基本に開催しています。集まった人数で、できる範囲で、橋を愛でながらお掃除しましょうという企画です。事前申込はありませんので、参加可能な方は、出島表門橋に来てください。そして、自分たちの橋としてきれいにします。自分の家や物もきれいにするのと同じです。

<あとがき>

渡邊竜一さんは、わざわざ私たちの研修のために東京から長崎へ来ていただき、設計者自ら「出島・表門橋」の説明をいただきました。そして、このプロジェクトの凄さを実感しました。また、出島ベースの方々の熱い活動も続けて行っていたいただければと願うばかりです。

「みんなで架けた公共事業」、そして「公共事業と観光産業の橋渡し役が表門橋」。説明を聞いている間もたくさんの修学旅行生がこの橋を渡りました。

この学生さんたちに「出島・表門橋」の話ができれば、土木事業へも関心を持つ学生が増えるのではと感じました。

形に残る仕事に夢を抱いてくれる人を増やすためにも、長崎「出島・表門橋」に力を発揮していただきたいものです。

渡邊竜一さんや出島ベースの方々に感謝申し上げます。

《面白い記事を見つけました》



出島表門橋架橋プロジェクト

12月9日 8:00

...

以前、ある人に『焼肉に使うトングが、出島表門橋に似てるよね!』と言われました。

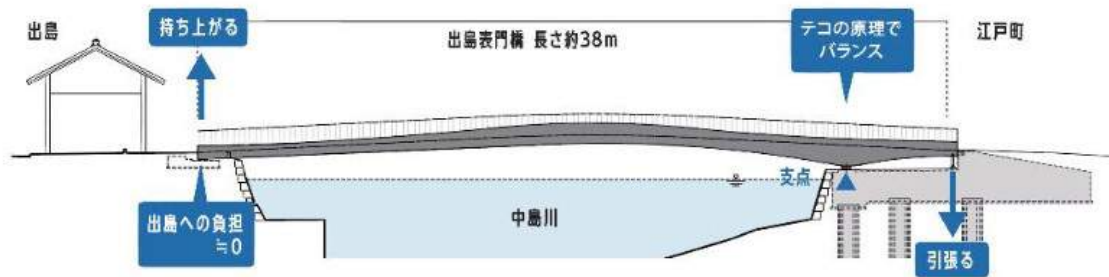
焼肉に使うトング? どんなトング?

調べてみたらありました!

真ん中の部分を支点にして、持ち手の部分が重くて、先が浮く。これは紛れもなく『出島表門橋トング』ですね。

焼肉屋さんでこのトングが出てきたら、出島表門橋ごっこしてみてください





シーカヤックで表門橋を下から眺めることもできます。眼鏡橋から長崎港へ楽しいですよ！！
 (シーカヤック長崎 岩永俊秀 090-5942-5222)



協同組合土質屋北陸
 (文責：森川和重)